

試験研究成果普及情報

部門	林業	対象	研究
課題名：森林のアメニティ効果の評価			
[要約] 生活環境の中で、森林の有無により日常的に得られるアメニティの数量化の試みとして、全体の環境や、森林、農地、河川の現状に評価点をつけ、アメニティの高さをランク分けする。アメニティの高さは、緑視率の減少や、人工建造物の増加による色彩の多さが影響する要素になる。			
キーワード（専門区分）森林レクリエーション(研究対象)森林風致—景觀 (フリーキーワード) アメニティ、森林景觀 緑視率、色彩			
実施機関名（主査）森林研究センター 環境機能研究室 (協力機関) (実施期間) 1996年度～2002年度			

[目的及び背景]

森林の保有している公益的機能の中で、人が森林を活用することで得られるアメニティを、具体的に数量化してあらわすため、数量化の可能な評価法の確立を目指す。

[成果内容]

- 1、「森林景觀主体による心理的アメニティ効果の評価表」を用い、現地調査と写真による評価得点の平均値で、アメニティの高さのランク分けや数量化が可能(表-1、2)。
- 2、アメニティの高さは、森林と農地を合わせた緑視率と、人工建造物の占める割合の違いで変化するようになる。緑視率が多いとアメニティは高く、人工建造物が多くなるとアメニティは低下する。
- 3、森林や農地が開発されると、開発前の基調色の緑色系が減少し、人工建造物のさまざまな色彩が増加してくる。それらの建造物の色彩は、人の視覚を強烈に刺激して混乱させるようになり、心理的なアメニティを低下させる要素になる。

[留意事項]

- 1、自然や環境の変化による心理的アメニティを評価する場合、同じ地点で繰り返し調査をする必要がある。また、調査地では橋や建物等目印を明確に定めておく必要がある。

[普及対象地域]

県下全域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表一 森林景観主体による心理的アメニティ効果の評価表

調査項目	評価項目	得点
調査地全体	森林・水田・畑・河川などの自然環境の中に人家が点在し開発とは無縁	40
	森林の周辺に集落が見られ、開発の波はまだ及んでいない	30
	森林の周辺に新しい住宅地が造成され環境が変わりはじめている	20
	森林や農地が開発され新しい道路、住宅団地の造成等で環境の変化が目立つ	10
	森林や農地が開発され大規模な住宅団地、道路、工場等に大きく変化している	5
	新たに造成された人工の開発地で、周辺環境は激しく変化している	0
調査地の部分構成	自然状態の森林や整然とした人工林、集落周辺の里山が一体となり連続する	20
	森林や植林した人工林、集落周辺の里山が連続したり断続したりしている	15
森林の状態	人工林や民家周辺の里山が点々と断続している	10
	民家周辺の里山が小面積で点在したり、屋敷林がみられる	5
	森林は全くなり、人工緑地や僅かな生垣などが見られる	0
農地の状態	自然地形を利用した棚田や段々畑等の農地が見られる	20
	整然と区画整理された水田や、耕作し管理されている畑が見られる	15
	水田、畑、草地化した休耕地、ビニールハウスや住宅地が混在する	10
	管理されず荒廃した休耕地が雑然としており、人工建造物に変化しつつある	5
	農地は極僅かに点在するのみになり人工建造物がほとんどを占めている	0
河川の状態	自然に近い小川や水路に澄んだ水が流れ水辺に豊かな生物が多く見られる	20
	一部改修されているが豊富な水が流れ、水辺に生物が見られる	15
	大部分が改修されているが常に水が流れている。	10
	全面改修されているが常に水が流れている。	5
	直線的に全面改修されてコンクリート化し水が汚れたり流れが滞っている	0

表二 評価得点によるアメニティのランク分け

総合得点	90点以上	89～66点	65～41点	40～17点	16点以下
ランク	5	4	3	2	1
評価	最もアメニティ 効果高い	アメニティ 効果高い	標準的な アメニティ	アメニティ 効果低い	アメニティ ほとんどなし

[発表及び関連文献]

平成13年度試験研究成果発表会資料—新しい農林業技術—、千葉県・千葉県農林技術会議